

PRIMERGY RX4770 M6 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX4770 M6 に関して、留意・注意事項およびマニュアル類の内容に訂正事項がございます。
製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

本文中の OS 名称は、次のように略して表記します。

OS 名	略称	
Windows Server ® 2022	Windows2022	Windows
Windows Server ® 2019	Windows2019	Windows
Windows Server ® 2016	Windows2016	Windows
Red Hat Enterprise Linux® 8.2	RHEL8.2	RHEL
Red Hat Enterprise Linux® 7.9	RHEL7.9	RHEL
SUSE® Linux Enterprise Server 15 Service Pack 2	SLES15SP2	SLES
VMware vSphere® ESXi 7.0 Update1	VMWare 7	VMWare

【制限事項】

1. ServerView からの BIOS 設定の Backup/Restore について

ServerView 及び iRMC Web ユーザーインターフェースからの BIOS Backup/Restore の際、一部設定 (※1)が Backup/Restore 出来ません。

BIOS 設定の Backup/Restore は、Redfish インターフェースから実施してください(※2)。

(※1)一部設定

- Application Profile
- IO DC Configuration
- Monitor MWAIT
- ADDDC Sparing
- 200 Series NVM/LRDIMM Average Power Limit (in mW)
- 200 Series NVM/LRDIMM Memory Bandwidth Boost(MBB) Average Power Time Constant (in mSec)
- 200 Series NVM/LRDIMM Turbo/Memory Bandwidth Boost(MBB) Feature
- 200 Series NVM/LRDIMM Turbo/Memory Bandwidth Boost Feature(MBB) Power Limit (in mW)
- Auto Boot Time-out

(※2)Redfish インターフェースからの BIOS 設定バックアップリストア方法

必要に応じ curl をインストールしてください。

- バックアップ方法。以下のコマンドで得られる JSON データを保存しておく。

```
curl <iRMC-IP アドレス> -u <iRMC-ユーザ>:<iRMC-パスワード> -H "Content-Type: application/json" -X GET -i https://<iRMC-IP アドレス>/redfish/v1/Systems/0/Bios/Settings
```

- リストア方法。取得していた JSON の中身を"{Attributes:{...}}"のみにしてファイルを書き戻す。

```
curl <iRMC-IP アドレス> -u <iRMC-ユーザ>:<iRMC-パスワード> -H "Content-Type: application/json" -H "If-Match:<etag 番号>" -X PATCH -i https://<iRMC-IP アドレス>/redfish/v1/Systems/0/Bios/Settings --data @<保存しておいたファイル>
```

Redfish の使用方法は、下記のマニュアルサーバの URL を参照してください。

<https://support.ts.fujitsu.com/IndexDownload.asp?Softwareguid=D6143282-82AC-4DE9-A1A5-6B33906ABA13>

2. Intel TXT について

本装置では、ハードウェア上でハイパーバイザーを直接稼働させる仮想環境 (Windows Hyper V, VMware ESXi など) において、Intel® TXT 機能 (インテル® トラストド・エグゼキューション・テクノロジー) をご使用できません。

3. NUMA Disabled 時の BIOS セットアップメニューのメモリ量表示誤りについて

BIOS セットアップメニューの Configuration - Memory Configuration - NUMA の設定を Disabled にした際、BIOS で表示するメモリ搭載量 (※1) が実際とは異なるサイズ (※2) で表示されます。メモリ搭載量は OS 上で確認してください。

(※1) 実際とは異なるメモリ搭載量が表示される箇所

POST 画面の以下の表示

- "<メモリ搭載量> MB memory installed."

System Information 画面の以下の表示

- "RAM Memory Size"

- "Installed Memory Size"

- "NV Memory Size"

(※2) "実際に搭載されているメモリ容量" x "搭載されている CPU の数" の容量が表示されます。

なお、21 項の条件が重なった場合、上記より 1GB x "搭載されている CPU の数" の容量分減って表示されます。

・例 1: メモリ 256GB、CPU4 個の場合、256GB x CPU4 個 = 1,024GB が表示されます。

・例 2: メモリ 256GB、CPU4 個で 17 項の条件が重なった場合、
256GB x CPU4 個 - 1GB x CPU4 個 = 1,020GB が表示されます。

4. BIOS セットアップの PXE Boot Option Retry 設定について

PXE ブートだけを無限リトライする機能が使えません (PXE Boot Option Retry 機能)。なお、標準の PXE ブートのリトライ回数は 1 回です。

5. ipmitool lan print コマンドが失敗する

ホスト OS 上で"ipmitool lan print"を実行すると、コマンド応答の先頭に"Get Channel Info command failed"と表示される場合があります。表示だけの問題であり、機能としては正常に動作します。

6. RHEL 8.2 で Kernel Panic を起こしたときのシステムイベントログの時刻について

RHEL8.2 使用時に iRMC Web ユーザーインターフェースから NMI を実行すると、iRMC Web ユーザーインターフェースのシステムイベントログに記録される"Kernel Panic, Message"の時刻がずれる場合があります。NMI の発生時刻はその他の NMI 関連のシステムイベントログの時刻から確認してください。

7. iRMC Web ユーザーインターフェース上の外部記憶装置のメニューについて

iRMC Web ユーザーインターフェースの外部記憶装置のメニューにおいて、物理 HDD や論理ディスクの ID LED ボタンを有効にすると、外部記憶装置のメニューが閉じる場合があります。その場合、再度外部記憶装置のメニューを再度開いてください。

8. iRMC の Rest API での DNS サーバ設定について

RestAPI を用いて iRMC の DNS サーバを設定すると、DNS サーバがずれる場合があります。iRMC Web ユーザーインターフェースまたは Redfish を用いて DNS を設定してください。

9. Shared LAN での IPV6 接続について

Shared LAN で IPV6 接続はご使用になれません。

10. iRMC LAN の Bonding について

iRMC LAN の Bonding 使用時に Bonding が動作しない場合があります。Bonding 使用時に iRMC への接続が切れた場合は LAN ケーブルの接続を確認してください。

11. 電力制限値に到達時の動作について

iRMC で設定した電力制限値に到達時の自動 OS シャットダウンおよび電源オフ機能は使用できません。

12. 【修正済】オンボード SATA コントローラ(ソフトウェア RAID) - Intel® VROC (SATA RAID) について

※ 本制限は、BIOS R1.10.0 で修正されました。

本装置では、オンボード SATA コントローラによるソフトウェア RAID 機能 - Intel® VROC (SATA RAID)をご使用できません。

BIOS 設定の [Configuration] メニュー - [SATA Configuration] - [SATA Mode] における "RAID"設定はご使用できません。AHCI mode のみ使用可能です。

13. GPGPU のサポート OS について

RHEL8.2 でご使用になれます。Windows2019、VMWare 7、RHEL7.9 では、ご使用になれません。

14. Optane PMem の OverWrite 機能について

Windows および SLES にて、記憶域に ALL0 データを書き込むセキュリティ機能である OverWrite 機能をご使用になれません。

15. Windows2016 での Optane PMem の使用について

Windows2016 では Optane PMem をご使用になれません。

16. Xeon Gold 6328H(PYBCP59G4)での Intel(R) Speed Select Technology - Turbo Frequency(Intel SST-TF について

Xeon Gold 6328H(PYBCP59G4)では、Intel(R) Speed Select Technology - Turbo Frequency(Intel SST-TF)を無効にしてください。

Intel SST-TF は OS 上で行う設定のため、この機能のみを無効化するには各 OS のドキュメントを確認してください。

また BIOS の設定で、Turbo Mode を無効化することにより、Intel SST-TF も無効化することが出来ます。

BIOS メニューでは下記より設定してください。

Configuration > CPU Configuration > Turbo Mode: "Disabled"

17. iSCSI 接続について

iSCSI の最新状況につきましては、下記リンク内の樹形図->周辺機器->ETERNUS 編『FUJITSU Server PRIMERGY オプション製品 システム構成図(ETERNUS 編)』をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

18. Rest API による BIOS Config 設定について

サーバが Power On のときに、Rest API で BIOS Config 設定を実施すると失敗します。REST API で BIOS config 設定を行う場合は、サーバを Power OFF して実施してください。

19. BIOS セットアップメニューからの Load iRMC Default Values について

BIOS セットアップメニューから、Load iRMC Default Values を実行しサーバを再起動すると、iRMC Web ユーザーインターフェース上の Power On Self Test (POST)の状態がエラーとなります。その場合は、iRMC Web ユーザーインターフェースの「ツール」→「iRMC のアップデート」の中にある「iRMC のリポート」ボタンより iRMC を再起動してください。

20. HDD/SSD/PCIe SSD モジュールの表示ランプについて

装置前面から HDD/SSD/PCIe SSD モジュールの状態を識別するための表示ランプ(アクセスランプおよび故障ランプ)が点灯/点滅しない場合があります。HDD/SSD/PCIe SSD モジュールの状態は iRMC Web ユーザーインターフェースに表示されるので状態を確認する場合は iRMC Web ユーザーインターフェースをご使用ください。

21. 【修正済】デュアル M.2 コントローラカードについて

※iRMC3.54P で修正されました。

デュアル M.2 コントローラカードに搭載された M.2 の温度に応じた FAN 制御が正常に行われられない不具合のため M.2 を適切に冷却する事ができず、温度異常のアラームが検出される場合があります。iRMC3.54P で修正済のためデュアル M.2 コントローラカードを使用する場合は 3.54P 以降を適用してください。

【留意事項】

22. Windows 2019/ Windows 2022 上の NVMe ドライブのホットプラグについて

Windows 2019/ Windows 2022 上で、NVMe ドライブ(2.5 インチ PCIe SSD)をホットプラグで挿入しても、自動で認識されない場合があります。その場合は、手動で Device Manager の更新を実施してください。

23. Dual Boot 設定について

1 つの Disk に複数の OS をインストールする Dual Boot 設定が出来ません。Dual Boot を行いたい場合は、2 つ以上の Disk を搭載してください。

24. BIOS が自動で生成するデバイスの Boot Option の削除について

起動可能なデバイスのうち、BIOS が起動時に自動的に検出するデバイスは削除できません。BIOS が検出するデバイスは、HDD・SSD などのストレージや、PXE・iSCSI・HTTP などのネットワークが含まれます。

例 1: Windows がインストールされたストレージが存在する場合

ブート順位 1: 「例: Windows Boot Manager」⇒削除できます。

ブート順位 2: 「例: <ストレージの型番など>」⇒削除できません

また、以下のような構成の場合、BIOS がブート順位 2 のデバイスを POST 中に検出できなくなった場合、ブート順位 3 以降のデバイスからの起動を試みます。回避策として、起動させる必要のないデバイスが存在する場合、BIOS が起動可能デバイスとして検出させなくするために、以下の設定変更を実施してください。

例 2: Windows がインストールされたストレージと PXE Boot 可能なネットワークポートが存在する場合

ブート順位 1: 「例: Windows Boot Manager」

ブート順位 2: 「例: <ストレージ A (Windows インストール済み)>」

ブート順位 3: 「例: <IPv4 PXE ネットワークポートの MAC アドレス>」

設定変更内容:

SATA HDD/SSD の場合: 「SATA Configuration」メニューの「SATA Controller」を「Disabled」に設定してください。

M.2 SATA SSD の場合: 「SATA Configuration」メニューの「SSATA Controller」を「Disabled」に設定してください。

ネットワークの場合: 「UEFI Network Stack Configuration」メニューの「Network stack」を「Disabled」にしてください。

25. 使用可能な DIMM の容量について

DIMM スロット 1A/1B/1C のすべてに DIMM を搭載している場合、使用可能な DIMM の容量が、搭載している DIMM の全容量より 1GB 少なくなります。

26. JAVA ビデオリダイレクションのマウスモードについて

RHEL8.X あるいは Windows 2019/ Windows 2022 で、JAVA ビデオリダイレクションを使用する場合、絶対マウスモードを使用してください。なお、マウスモードのデフォルト値は絶対マウスモードです。

また HTML5 ビデオリダイレクションでは本件は発生しません。

27. iRMC Web ユーザーインターフェースの CPU の L3 cache のサイズについて

iRMC Web ユーザーインターフェースの CPU メニューにおいて、CPU の L3 cache のサイズが正しく表示されません。L3 cache サイズについては BIOS メニューもしくは OS から確認してください。

28. Mellanox 製品搭載時の Infiniband/Ether カードの搭載制限について

PY-LA3E22/PYBLA3E22/PYBLA3E22L/PY-LA412/PYBLA412/PYBLA412L と PY-HC341/PYBHC341/PY-HC342/PYBHC342 を混在させることはできません。

29. Optane PMem の eADR/ADR 機能について

eADR/ADR 機能(CPU 内のメモリコントローラに存在する、キャッシュデータを Optane PMem 側にハード的に書き込む機能)は、ご使用になれません。

30. Optane PMem の Memory Mode について

Memory Mode はご使用になれません。

31. Optane PMem の Mix Mode について

App Direct Mode と Memory Mode を混在させる Mix Mode はご使用になれません。

32. Optane PMem の Boost Mode について

Boost Mode (性能向上のため一時的に 18W で動作させることができる機能)はご使用になれません。

33. UEFI モードについて

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

34. NVMe ドライブご使用時の留意

サーバ本体の VMD Controller 設定を Disabled にてお使いの場合、NVMe の故障はリモート通報の対象には含まれません。

NVMe ドライブ(2.5 インチ PCIe SSD)交換時、ドライブの物理搭載位置は、iRMC Web ユーザーインターフェースより確認してください。そのため NVMe ドライブをご使用になる場合は、事前に iRMC のネットワーク設定をお願いいたします。

35. iRMC S5 のご使用上の留意・注意事項に関して

その他、iRMC S5 に関するご使用上の留意・注意事項については、「iRMC S5 (Integrated Remote Management Controller)ご使用上の留意・注意事項」をご確認ください。本留意・注意事項は下記リンクから、ご使用の機種を選択し、各サーバ本体の個別のマニュアルより参照いただけます。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

36. PFR 機能付きモデル(PYR4776RDT)の BIOS, iRMC FW アップデートに関して

PFR 機能付きモデル(PYR4776RDT)に対し、オンラインアップデートツールを使用して、BIOS, iRMC FW をアップデートすることはできません。端末より iRMC Web インターフェースに接続し、BIOS, iRMC FW をアップデートしてください。Mainboard の保守交換時は、保守員が iRMC Web インターフェースに接続することが必須となります。環境を準備出来ない場合は、お客様にて BIOS, iRMC FW を適用してください。

37. Windows 2022 インストール時のライセンス認証について

PRIMERGY Windows OS オプションの Windows 2022 メディアを用いてインストールした際、ライセンス認証を求められます。認証の手順は下記の「Windows 2022 手動ライセンス認証 手順書」をご参照ください。

<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/#note03>

38. Intel SST(Speed Select Technology)の使用について

Intel SST をサポートする CPU を搭載時に、Intel SST のご利用が可能です。

RX4770 M6 では、Intel SST-CP(Core Power)、Intel SST-TF(Turbo Frequency)をサポートしています。

Intel SST を使用するには、BIOS のメニューより下記の設定を行ってください。設定の詳細については、「BIOS セットアップユーティリティ」を参照してください。

Intel SST 種類	BIOS メニュー名	設定値
Intel SST-CP Intel SST-TF	Active Processor Cores	All
	Enhanced SpeedStep	Enabled
	Turbo Mode	Enabled
	Energy Performance	Performance
	P-State Coordination	HW_ALL
	HWPM Support	Native Mode または Native Mode with no legacy
	AVX ICCP pre-grant level	no override

Intel SST の各種の設定は、OS 上から行います。その設定については、下記のドキュメントを参照してください。

Intel の公開ページ：

「Intel® Speed Select Technology - Core Power(Intel® SST-CP) Overview」

<https://networkbuilders.intel.com/solutionslibrary/intel-speed-select-technology-core-power-intel-sst-cp-overview-technology-guide>

「Intel® Speed Select Technology – Turbo Frequency (Intel® SST-TF) Overview」

<https://networkbuilders.intel.com/solutionslibrary/intel-speed-select-technology-turbo-frequency-intel-sst-tf-overview-user-guide>

Linux の公開ページ：

「Intel(R) Speed Select Technology User Guide」

<https://www.kernel.org/doc/html/latest/admin-guide/pm/intel-speed-select.html>

39. インテル社のファームウェアに関する脆弱性(INTEL-SA-00828 / CVE-2022-40982)について

INTEL-SA-00828 / CVE-2022-40982 に対応した BIOS R1.17.0 版以降へアップデートし脆弱性対処を実施した場合、処理性能への影響を示唆する記事がインテル社より公開されております。その為、本脆弱性

に対する対処を判断して頂く為の情報を以下に記載しておりますのでご参照ください。

重要なお知らせ : <https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/note/page43.html>

40. PFR 機能なしモデルと PFR 機能ありモデルの BIOS に関して

PFR 機能なしモデルの BIOS ファイル(D3892-A1.UPC/ D3892-A1.ROM/D3892-A1.UPD)と PFR 機能ありモデルの BIOS(D3892-C1.UPC/ D3892-C1.ROM/D3892-C1.UPD)は、ファイル名は異なりますがバイナリは同一のファイルになります。

そのため、PFR 機能ありモデル(PYR4776RDT)に対し、PFR 機能ありモデル用の BIOS を適用しても、以下の BIOS 版数表示における D 番号は PFR 機能なしモデル(D3892-A1)の表示となる箇所があります。

- BIOS の POST メッセージ画面



- SMBIOS Type0 の Version
Version: V1.0.0.0 R1.19.0 for **D3891-A1x**
- iRMC Web GUI に表示される BIOS 版数表示

^ System Information	
Model Name	PRIMERGY RX4770 M6
Chassis Type	RX4770M6R2
Serial Number	MABTxxxxx
Part Number	CA05954-5422
Asset Tag	System Asset Tag
System GUID	00000000-0000-0000-0000-000000000000
BIOS Version	V1.0.0.0 R1.19.0 fo D3892-A1x

^ BIOS Update	
Installed Version	V1.0.0.0 R1.19.0 fo D3892-A1x
Update Source	Image file
System Power On After Bios Update	<input type="checkbox"/>
Image File	Select...

① Don't leave this page until file is uploaded
① Allowed file extensions: bin, upc, upd

— 以上 —